

くじゅうだより

タデ原湿原

Tadewara

ラムサール条約登録20周年

坊ガツル湿原

Bogaturu

2025 秋号

TAKE FREE



くじゅうファンクラブ活動情報

皆さまのご支援で
こんな活動しています

教育・普及啓発

自然環境保全・調査

登山道等整備活動

*「くじゅうファンクラブ」は、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称です。

夜のタデ原さんぽを開催しました！

今年も8/23、30、9/6に「夜のタデ原さんぽ」を開催しました！4年目となるこの企画は夜の森やタデ原をガイドと一緒に歩きながら、昼間では感じられない動物たちの息づかいや夜の植物の様子を五感で感じていただける人気イベントです。

今年はスタート時に雨に見舞われるなど天候に恵まれない日もありましたが、ガイドさんの楽しい話に耳を傾けながら歩く雨上がりの夜のタデ原は、特別な体験となったとの感想を頂きました。また、9月16日には「草原サミットイベント」として九重町民向けに実施し、地元の方々に改めてタデ原の魅力を知っていただく機会となりました。



自然公園クリーン作戦が行われました

阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地区の環境美化活動である「国立公園クリーン作戦」が行われました。やまなみハイウェイ沿いや長者原・牧ノ戸峠周辺、飯田高原一帯などの場所を、関係団体の皆さんでゴミ拾いをしました。道路沿いの草むらのをのぞいてみるといつもは気が付かないゴミが見つかります。まだこんなにゴミがあるのだなと思いつつ、ゴミを拾っていきまし。毎年行っている活動ですが、たくさんのゴミが拾われていきます。出したゴミは持ち帰る。ポイ捨てはしない。など1人1人の行動が美しくくじゅうの自然を守っていくことに繋がると思います。



チームタデ原結成20周年！展示づくりにチャレンジ

2015年、KODOMOラムサールを契機に9人のメンバーでスタートしたチームタデ原は、今年で結成10年目を迎えます。今年の宿泊学習は、より多くの方に「タデ原のお宝」を伝えよう！と、初めての展示づくりにチャレンジしました。

1人ひとりが決めたテーマについて一生懸命に調べ、展示としてまとめていきます。写真やイラストを使い、見る人が分かりやすいかという視点から、これまでの活動や結成のきっかけ、タデ原湿原の希少な植物・生きものについて紹介する展示が完成しました！

今回作成した展示は、10月以降にビジターセンター館内の企画展で併せて紹介する予定です。



野焼きの準備が進められています

地元ボランティアのみなさんとタデ原湿原の防火線切りを行いました。防火線は別名輪地(わち・わじ)とも呼ばれ、野焼きの際に延焼を防ぐ役割があります。安全に野焼きを実施するためには欠かすことのできないとても大切な作業です。幅約10mの大きな帯を作っていくように草を刈り、松葉かきなどを使って草を寄せていきました。暑い中での作業となりましたが、公私隊のみなさんの頑張りにより、今年も立派な防火帯ができています！

くじゅうファンクラブでは道具の貸し出しやスタッフの派遣を通して、地元ボランティア団体による自然環境保全活動を応援しています。



阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー (団体)

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15~30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

■参加費…無料 ■予約…要



タデ原自然観察会 (個人・団体)

九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気の観察会。タデ原の植物・生きものを楽しみながら観察してみませんか？団体でのお申込みは事前にご相談ください。

■参加費：無料 ■予約…個人：不要/団体：要
■開催：毎週日曜・祝日10:00~12:00 (12~2月は隔週)
※当日朝10時までにビジターセンター受付で申し込み



賛助会費・寄付金について

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育・普及啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等整備活動を実施しています。活動に賛同して下さる賛助会員や寄付のご協力を願っています。皆さまの温かいご支援お待ちしております！

●賛助会員

<個人> 3,000円/1口・年間
<団体> 10,000円/1口・年間
特典：会員証、缶バッジ、自然情報配信など
お支払方法：クレジットカード、郵便振替、銀行振込



賛助会員



ご寄付



くじゅうだより2025秋号

発行：くじゅうファンクラブ
(くじゅう地区管理運営協議会)
〒879-4911
大分県玖珠郡九重町大字野田255-33
長者原ビジターセンター
TEL・FAX 0977-3-79-2154

活動報告やくじゅう連山登山道などの情報はくじゅうファンクラブHPから！

くじゅうのリアルタイム自然情報はFacebook・Instagram・Xで配信中！

くじゅうファンクラブ

職員からのひとことリレー

暑かった夏がようやく終わり、タデ原湿原はススキの穂が揺れ、朝晩は肌寒いほどに秋の深まりを感じることが出来ます。ほんの数年前までは夏はエアコンがなくても快適に過ごせた長者原も、真夏の屋内ではエアコンが必須になるなど、自然の変化を肌で感じるようになりました。自然は移り変わり、時には脅威にもなるものですが、私たちが今出来ることが何か、考えさせられる今日この頃です。 竹菴

長者原ビジターセンターへのアクセス



長者原ビジターセンターまで車で湯布院から40分/九重ICから30分



坊ガツル湿原

ラムサール条約登録20周年

タデ原湿原



坊ガツル湿原とは

「坊」は法華院などの坊（僧侶の住むところ）があったことから、「ツル」は流れの畔の平地を意味することから「坊ガツル」と呼ばれています。キャンプ場や法華院温泉山荘を有し、くじゅう登山の一大拠点として、さらに「坊ガツル賛歌」のモデル地としても知られる場所です。



タデ原湿原と坊ガツル湿原は、阿蘇くじゅう国立公園内にあり、20以上の火山群が連なるくじゅう連山の山頂帯と山麓湧水地に形成された国内最大級の間接湿原*です。国際的に重要な湿地として2005年「ラムサール条約」に登録され、2025年で20周年を迎えます！今号はこれを記念して、タデ原湿原と坊ガツル湿原を紹介していきます。



ラムサール条約とは

* 低層湿原（地下水や雨水等が流れ込む栄養が多い湿原）と、高層湿原（雨水だけで栄養が少ない湿原）の中間の性質を持つ湿原

1971年にイランのラムサールで開かれた会議でつくられた条約で、正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいますが、採択の地にちなみ、一般的に「ラムサール条約」と呼ばれています。水鳥が休んだり餌を取ったりするのに大切な湿地を保護するための国際的な取り決めて、日本では2025年現在、54カ所の湿地が登録されています。タデ原湿原と坊ガツル湿原は2005年11月8日、アフリカのウガンダで開催された第9回ラムサール条約締約国会議で登録されました。

坊ガツルの四季

Bogaturu

マンサク (初春)	冬	サワオグルマ
オトカラコウ	春	ハルリンドウ
リンドウ	秋	リュウキンカ
ヤマラッキョウ	夏	ソバナショウブ
		ハンカイソウ
		サワギキョウ

坊ガツル湿原

約1,200～1,300m

標高

約53ヘクタール

登録面積

所在地

大分県竹田市

周囲を中岳、三俣山、大船山など1700m級の山々に囲まれた盆地

鳴子川や大船山山麓の湧水に加え、年間降水量3,700mmもの雨水が伏流水となって湿原を潤しています。

アクセス ※坊ガツルへは徒歩でしか行けません！

- ①長者原登山口（タデ原）から徒歩2～2時間半
- ②吉部登山口から徒歩2～2時間半
- ③一番水登山口から徒歩2時間半～3時間

徒歩2～2時間半

タデ原湿原

約1,000m

標高

約38ヘクタール

登録面積

所在地

大分県九重町

くじゅう連山北麓に広がる飯田高原南部に位置し、火山活動によってできた巖状地

指山湧水や湯沢湧水、雨水などが山麓から湿原の地中を流れ、タデ原を流れる白水川と合流し、速く筑後川まで繋がっています。

アクセス

やまなみハイウェイ（県道11号線）沿い 長者原ビジターセンター隣接地

散策コース
A-約20分
B-約40分
C-約1時間

坊ガツルキャンプ場

くじゅう連山のほぼ中央に位置する無料のキャンプ場。トイレや炊事場が整備されており、ここを拠点にくじゅう登山を長期間楽しむこともできます。毎年春には野焼きが行われ、貴重な湿原の自然は地元の人やボランティアによって守られています。テントはトイレや炊事場周辺のキャンプサイトに必ず設置し、ゴミは持ち帰る等ルールを守ってお楽しみ下さい。



野焼き

※野焼きは危険を伴うため、実施日の一般公開はしていません。



2000年（平成12年）坊ガツル湿原では32年ぶりに野焼きが再開した。

くじゅうの春の風物詩でもある野焼きですが、1960年代から農家の減少などの影響を受け、徐々に行われなくなっていました。タデ原湿原や坊ガツル湿原でも一時期途絶えましたが、地元有志を中心に復活を遂げたことがラムサール条約登録に大きく貢献しました。



1997年（平成9年）タデ原湿原では8年ぶりに野焼きが再開した。

法華院温泉山荘

法華院温泉山荘の起源は法華院白水寺というお寺で、この白水寺を中心にくじゅうの山岳信仰が栄えました。開山は、なんと正中元(1324)年！明治15(1882)年に起きた火災以降、一般の人でも宿泊できる山荘となり、九州最高所の温泉地としても知られています。



現在の問題～これから



くじゅうを代表する湿原である坊ガツル湿原とタデ原湿原ですが、近年はシカによる希少植物等の食害の影響が顕著にみられるようになり、タデ原湿原では一部にシカ柵を設置し、希少植物を保護するなどの取組が行われていますが、地域の力だけでは人材や資金が不足するため多くの方の支援を必要としています。



タデ原湿原のシカ柵設置の様子。

タデ原湿原とは

地域に伝わる「朝日長者伝説」の長者が好んで食べていた「ヤナギタデ」という植物の名前から「タデ原」と呼ばれるようになりました。やまなみハイウェイ沿いにあり、木道が整備され散策を楽しめるとともに、坊ガツルや三俣山への登山口として登山客にも親しまれている場所です。



タデ原の四季

Tadewara

アキノキリンソウ	冬	キスミレ
アゴホソソウ	春	サクラソウ
マツムシソウ	秋	マイヅルソウ
	夏	ヒゴタイ
		コライトモリソウ
		サイヨウシャジン

ワイズユース

ラムサール条約には①保全・再生 ②ワイズユース(賢明な利用) ③交流・学習の3つの基盤となる考え方があります。地元小中学生からの声で立ち上がった「チームタデ原」は今年で結成10周年。くじゅうの自然を引き継いでいくために、キッズガイド、草こづみ作り、野焼き活動への参加など様々な活動を継続的に行っています。



草原サミット

草原保全にかかわる全国の仲間が一堂に会し、草原について語り合う場として、2026年9月に九重町で「全国草原サミット・シンポジウム」が開催されます。「野焼き文化と草原のめぐみ」を未来へつなぐために私たちができることは？保全の知識や技術を共有し、草原を未来につなげていくことを目標としています。

